

特集 墨彩画公募展

7回目となる「雪舟の里 総社 墨彩画公募展」。全国各地から342点(298人出品)の力作が寄せられた。審査は6月29日に行われ、雪舟大賞、平山郁夫賞(審査員長賞)、特選3点、奨励賞5点、入選45点の、計55点の入選作品が決定した。

雪舟大賞には長原勲さん(玉野市)の「site.N」が輝いた。直島(香川県)の海岸に生息している植物をモチーフに描いた作品だ。審査終了後、審査員の一人、上村淳之さんが「あまりに上手い」と絶賛した。また、別の審査員は「大地をとらえている」とも。長原さんは23歳。歴代の雪舟大賞のなかでは、最年少の受賞者だ。岡山県内の人雪舟大賞を受賞したのは、第2回の竹森裕さん(瀬戸内市)以来10年ぶり。

平山郁夫賞(審査員長賞)には真鍋修さん(東京都国立市)の「みつばちの羽音」が、特選には、池田真理子さん(茨城県つくば市)の「大切なひと」、宇高健太郎さん(東京都台東区)の「雨の音」、池庄司淳さん(滋賀県大津市)の「湖辺西風」の3点が輝いた。審査員から高い評価を得た雪舟大賞、平山郁夫賞、特選の5作品は、市の買い上げとなる。

平成8年に第1回目を開催して以来、2年に1回のビエンナーレで継続開催されてきた。今では、日本画の登竜門と位置付けられるような公募展に成長。今回もレベルの高い作品が数多く出品された。第二の雪舟さんの誕生を願って始まったこの公募展。審査員の心をつかむ作品が多かったという印象が強く残った今回の公募展だった。



墨彩画公募展の審査風景

雪舟大賞は  
長原勲さんの  
「site.N」に



雪舟大賞に輝いた「site.N」  
F100号 130.3cm×162cm



雪舟大賞受賞者  
**長原 勲**さん(玉野市)  
Nagahara Isao

直島の海岸近くの少し乾いた大地に、枯れ枝でありながらも、しっかりと地をはい、まっすぐに空に向かって枝を伸ばす姿をモチーフにしました。枯れたものもつ生命観や自然本来のもつゆらぎの美しさに感動して描いた絵です。墨も結構使いました。重なりあいを楽しむつもりで、絵の下側の地面の部分には、墨を薄く溶いて描いています。今後も日本画を描いていきたいと思っていて、描き続けていくうえで、今回の受賞は大きな励みになりました。

<プロフィール> 昭和60年、玉野市生まれ。倉敷芸術科学大学大学院の芸術研究科美術専攻修士課程に在籍。春の院展に初入選(平成20年)をはじめ、第10回広島県・岡山県大学美術系卒業制作選抜展で優秀賞や、第10回倉敷芸術科学大学芸術学部卒業制作展で加計勉大賞の受賞の入賞歴をもつ

■審査員  
[審査員長] 平山郁夫(日本美術院理事長)  
[審査員] 上村淳之(日本芸術院会員)、神野力(元ノートルダム清心女子大学教授、井尻野)、竹内浩一(日本画家)、中野嘉之(多摩美術大学教授)、福井爽人(東京芸術大学名誉教授)、守安収(岡山県立美術館参与、上林) [敬称略]